

ノ假令大和國此聲、ヤマトウタノ聲ハ山跡ノ義也、定家卿說、ヤマトフミト云聲ハ山戸、山止ノ義也、六條家三說ヲ以テ見レバ、ドチヘモ讀ベキ歟、日本トモ倭トモ書テ、共ニヤマトト讀也、和ノ字ヲカクハ音通ズル故也、大日本トモ大倭トモ書ドモ、必ヲホヤマトト讀マズ、只ヤマトト讀也、日本ヲヤマトト讀ハ義訓也。○下略

〔日本釋名上地名〕大和 やまと の訓 山迹 山止 山戸 古人此三說あり。○中略篤信おもへらく、古人の説は後人まことにみだりに議すべからず、されど此三說皆みだりにおしはかりて附會せるやうに聞え侍べれば、信用しがたし、神武帝の日向より東征し給ふ時、先難波より枚方にのばらせ給ひ、それよりいこま山をこえて、大和に入給ふ、膽駒山の外にある國なる故に山外と云、とは外也、淀河の内にある國を河内と云、山外とは河内に對して名づけけらし、又いこま山のうしろにある故、山背シロと云、うしろは北也、やまとを日本の總名とせしは、大和國に都有しゆへ也、志き島に都ありしゆへ、日本の總名を敷島と云しがごとし、もろこしに此ためし多し。○下略

〔秦山集 雜著十三〕日本稱倭辨壬申

耶麻騰之爲國號也、昉乎神代、盛於皇朝、有山迹山戸山止之三義、而猶有秘訓填之、以日本二字者、原於舊俗比濃茂騰之名、而亦有大日靈貴之訓傳、其義精矣、若夫倭字西土之所號、和字後世之所轉、皆非我之稱、而訓之爲耶麻騰、亦特隨乎流俗之所馴習爾、非嘉而從之也、舍人親王筆日本書紀於神代卷不用倭字、至於人皇紀、假用爲大和一國之號、以別之全國耳、未嘗爲天下之號也、其辨嚴矣、應神紀大倭木滿致、蓋從百濟之所稱也、以下外國所稱倣此、孝德紀我大倭及天武紀銀在倭國偶洩、其他外國之稱於改創耳、孝德二年日本倭根子天皇是合創倭字而誤存之者、其改正手段於此可見、其他外國之稱我者尙多、文人詞客可而用之、莫考其實焉鄙哉。○中略曰、耶麻騰之名創乎神武天皇、蓋天皇定天下、到大和國、王業始成、仍以定王業之地爲國號、猶武王於岐周定王業、故國號周、此說諸家相承已久、而貝原損軒亦曰、神武帝之東征也、自浪速過於河内、將逾於膽駒山而入于大和、其方駐六軍於膽駒山之